

自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報

平成 22 年度 No. 6

平成 22 年 9 月 12 日発行

北海道ボランティア・レンジャー協議会

その1 虫こぶとは？

虫こぶとは、虫などの寄生生物の影響で、何らかの刺激を受けた植物の一部が増殖したり肥大したり、分化に異常が生じたりしたもので、「虫こぶ」のほかに「虫えい」、「G a l l（ゴール）」とも呼ばれます。えいは **瘻** と書き、コブの意味です。

その2 虫こぶを作る犯人

ハエやハチ、アブラムシが虫こぶ全体の半分近くを占めるようですが、これらの昆虫のほかに、ガやダニ、菌類や線虫、ウィルスも（広い意味で）虫こぶを作ります。

※ダニ、菌類、線虫、ウィルスは虫(昆虫)ではないので広い意味での虫こぶ。

その3 虫こぶの名前のつけ方

規則的に名前がつけられていることが多く、「寄生植物名 + 虫こぶのできる場所 + 虫こぶの形（色）+ フシ」という順序になります。

最後の「フシ」は、「えい」のことで、つまり「こぶ」を意味しています。たとえば、「ブナハアカゲタマフシ」は、ブナの葉にできる赤い毛玉のような虫こぶ。「ハマナスメトゲコブフシ」は、ハマナスの芽にできるトゲのついたコブのような虫こぶ。

実物を見ていなくとも、どんな植物の、どんな場所にできる、どんな形（色）の虫こぶなのか想像できます。

その4 身近に見られる虫こぶ

野幌森林公園でも、あちこちで見られます。目立つ寄生植物は、オオヨモギ、ミズナラ、開拓記念館付近に植栽されているハマナスなどに、沢山できています。チシマザサやクマイザサにも笹魚（ササウオフシ）と呼ばれる虫こぶができます（写真）。探してみましょう。



(HP「北海道の虫えい(虫こぶ)」から転載)

その5 虫こぶの意外な利用法

(1) 没食子(もっしょくし)と五倍子(ごばいし)

没食子は、中近東のナラやカシの芽に、インクタマバチが産卵してできた虫こぶを乾燥したもので、五倍子は、ヌルデの葉に、ヌルデシロアブラムシがつくことでできる虫こぶを乾燥したもので、どちらも50%以上のタンニンを含んでいます。タンニンは、茶やワインにも多く含まれています。渋柿の渋みもタンニンが含まれているからです。古くからインクの原料や皮のなめし、染色などに使っていました。今ではほとんど使われませんが、医薬品や化学薬品の製造原料として健在です。

(2) 虫こぶを食べる

マコモというイネ科の多年草があります。マコモの茎に黒穂菌(くろぼきん)が寄生して、タケノコのように肥大したものをマコモタケと呼び、中に胞子ができる前に収穫し、中華料理の食材にします。タケノコとアスパラの間のような食感で、スープに入れたり肉の細切りと炒めたりして食べるそうです。一度食べてみたいなあ。

その6 てんぐ巣病

写真のようになっている木を見たとはいえませんが、似ているけどヤドリギではありません。これは、細菌の仕業で、「虫えい」ではなく、「菌えい」と呼びます。太い枝の一部から、小枝が密生して、鳥の巣(天狗の巣)のように見えます。多数の小枝が叢生(そうせい)して、箒(ほうき)状になることから英語で witch's broom(魔女のほうき)と呼びます。

※叢生 草木などが群がって生えること。



※参考文献 「虫こぶ入門」八坂書房

観察会の予定

- 10月14日(木) 「秋の森の匂いをかごう」観察会 10時15分～14時30分
北海道 開拓の村集合(交流館で昼食) 昼食持参
- 11月3日(水) 「晩秋の森観察会」(志文別コース) 10時00分～14時30分
野幌森林公園 自然ふれあい交流館集合(森林の家で昼食)昼食持参
- 11月7日(日) 「秋のありがとう観察会」 10時00分～12時30分
野幌森林公園 自然ふれあい交流館集合 ごみ拾いをします